

連合宮城

第72回地方委員会を開催



連合宮城は、2021年2月26日(金)、ハーネル仙台(仙台市)において、連合宮城『第72回地方委員会』を開催した。新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中、前回同様の形態での開催となった。

議長団にはU A ゼンセン・川村純一地方委員、情報労連・橋本真美地方委員の2名を選出し、スムーズな議事進行に努めていただいた。

冒頭、執行部を代表し小出会長は、「前回同様の開催形態となった。協力いただいた構成組織に感謝申し上げます。新型コロナウイルスの規制から1年余りが経過したが、県内でも連日感染に係る発表がされており、世界をみても感染拡大の傾向は収まっていない。緊急事態宣言は、首都圏を除き2月末に解除されるとのことだが、健康を優先するのか、経済を優先するのか国民に示されないままでは、感染の再拡大をもたらすのではないかと心配せざるを得ない。エッセンシャルワーカーをはじめ、働く仲間のこれまでの苦労や努力に対して、処遇改善、賃金改善を求める今次闘争は経済も健康も元気になる、社会的に意義のある闘いである。また、秋までには必ず行われる解散総選挙に全力を挙げていきたい」と述べた。この他にも、連合岩手の不正経理問題に関するこれまでの状況や、東日本大震災から10年を迎えるにあたり、引き続き地域とつながった運動推進の決意について語った。

その後、一般活動報告ならびに2021年度中間会計決算・監査報告がなされ承認された後、議案では、2021春季生活闘争方針(案)や第92回メーデー宮城県大会開催(案)、第49回衆議院選挙対応方針(案)が提案され、満場一致で承認された。また、第1号議案では、運輸労連・齋藤地方委員より補強意見があった。



退任された山本常任執行委員
(気仙沼地協 事務局長)



議長団:橋本真美 地方委員 [情報労連](左)、
川村純一 地方委員 [UAゼンセン](右)



新役員の門脇常任執行委員
(気仙沼地協 事務局長)

第72回地方委員会 主な議案

- 第1号議案 連合宮城2021春季生活闘争方針(案)について
- 第2号議案 第92回メーデー宮城県大会の開催(案)について
- 第3号議案 第49回衆議院選挙の対応方針(案)について
- 第4号議案 役員交代について
- 第5号議案 その他
 - (1)連合宮城役員の表彰について
 - (2)「東日本大震災より10年」今後の取り組みについて

補強意見

第1号議案 連合宮城2021春季生活闘争方針(案)について
○運輸労連・齋藤地方委員

運輸労連に対し、労働条件と組合結成の相談が寄せられた。組織拡大は重要な取り組みであるが、様々な課題もあり、一般的に労働組合がどのように認知・認識されているのか、労働組合減少への大きな課題だと認識した。

ナショナルセンターとして労働組合の認知度を上げ、組織率を高め、社会における影響力を強めていくためには重要な課題だと考える。



連合宮城2021春季生活闘争

誰もが希望を持てる社会を実現！

安心・安全に働ける環境整備と「底上げ」「底支え」「格差是正」で！



春季生活闘争討論集会

連合宮城 2021 春季生活闘争

連合宮城は、以下のとおり新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、規模の縮小ならびに感染防止対策を徹底したうえで、連合宮城2021春季生活闘争「討論集会」を開催した。

- 開催日時 2021年1月26日(火)18時00分～19時10分
- 開催場所 ハーネル仙台 2階「松島」(最大収容人数255名)
- 開催内容 (1)主催者あいさつ
(2)連合宮城2021春季生活闘争方針(案)について
(3)構成組織における要求方針ならびに決意表明について
- 参加人数 57名(例年100名程度) ※収容率約25%

冒頭、主催者あいさつとして小出会長は「バブル崩壊以降、この間長い年月をかけてデフレ脱却に向けて賃上げの流れをつないできた。現下のコロナ禍の厳しい状況だからこそ、賃上げによる個人消費の拡大の機運が高まっている。そして賃上げについては、未組織労働者を含めた組織内外に波及させ、組合員の生活を守らなければならない」と述べた。

つづいて、本来であれば連合本部より講師を招き、今次春季生活闘争を取り巻く情勢や課題について講義を予定していたが、11都府県に「緊急事態宣言」が発出されたことを踏まえ講師派遣は中止し、連合方針を踏まえ阿部副事務局長より「連合宮城2021春季生活闘争方針(案)」について提起した。

最後には各構成組織における要求方針と決意表明について、U A ゼンセン(鈴木啓臣氏)・J R 総連(青田隆弘氏)の2構成組織より受けた。

残念ながら「団結ガンバロー」での締めくくりは見送ったが、今次春季生活闘争の勝利を祈念し、参加者全員の拍手で閉会した。



闘争方針(案)について提起



構成組織からの報告:
鈴木氏[UAゼンセン](左)、青田氏[JR総連](右)



春季生活闘争勝利総決起集会

連合宮城 2021 春季生活闘争

連合宮城は、今次闘争を取り巻く情勢や構成組織の方針の共有、勝利に向けた団結を目的に、以下のとおり新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、例年屋外で開催している集会について、開催形態や規模の縮小ならびに感染防止対策を徹底したうえで、連合宮城2021春季生活闘争「勝利総決起集会」を開催した。

- 開催日時 2021年2月26日(金)16時00分～17時00分
- 開催場所 ハーネル仙台 3階「蔵王」(最大収容人数255名)
- 開催内容 (1)主催者あいさつ
(2)2021春季生活闘争に係わる情勢報告
(3)各構成組織における決意表明
(4)集会アピール採択
- 参加人数 約60名※収容率約25%
(例年は屋外のため、約300名程度)

冒頭、主催者あいさつとして小出会長は、「景気の動向やGDPは大きなマイナスの状況である。都市部への人口流出の歯止め、地域経済の活力の向上など、魅力ある職場・雇用に向けて、今次闘争は社会的意義のある闘いである」と述べた。

また、自治労・交通労連より決意表明を受けるとともに、最後は、連合宮城青年委員会目黒委員長が集会アピール(案)について読み上げ、参加者皆さんの拍手で採択された。



決意表明:木幡氏[自治労]

決意表明:小林氏[交通労連]



集会アピール(案)の採択[目黒連合宮城青年委員長]



宮城県経営者協会との「労使懇談会」

連合宮城 2021 春季生活闘争

連合宮城は、今次春季生活闘争のヤマ場の前段において、以下のとおり宮城県経営者協会と労使懇談会を開催し、『連合宮城2021春季生活闘争に関する要請書』を提出し、現下のコロナ禍の影響を踏まえた雇用安定と賃金の引上げ、ならびに「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直しなどについて要請を行った。

- 開催日時 2021年3月3日(水) 14時00分～15時00分
- 開催場所 江陽グランドホテル 4階「銀河の間」
- 開催内容 (1)労使代表者あいさつ
(2)「2021春季生活闘争に関する要請書」手交
(3)意見交換会
- 出席者 連合宮城四役(9名)、宮城県経営者協会(13名)



宮城県経営者協会の海輪会長は、経労委報告のポイントについて触れるとともに、「コロナ禍により、特定の産業が甚大な影響を受けている一方で、首都圏一極集中の是正の機運が高まりつつあり、地方分散社会を実現するチャンスといえる。魅力ある雇用の創出に努めることは重要な課題であり、働きやすい職場環境の整備を進めていかなければならないが、足元では多くの中小企業が行政支援を受けながら、「事業の存続と雇用の維持」を図っているのが現状である。「企業収益を適正に分配し、地域経済の好循環を回していく」という基本認識は労使で一致しているが、その実現には、「労働者の雇用を守る」ことを最優先にすることを大前提としつつ、個社の実態に応じ、総合的処遇も含めた様々な施策について、労使が知恵を出し合うことが何よりも重要である。」と挨拶。

連合宮城の小出会長は「コロナ禍は、国民生活や社会・経済のあらゆる分野に影響をもたらしており、景気は、一部では事業遂行や雇用に影響がでている一方で、株式市場は好景気に沸いており、生活実感とはかけ離れた不自然な状況にある。個別企業によって好不況があることは今も昔も同じであったが、労使は真剣な交渉を重ね難局を乗り越えてきた。だからこそ、企業は分配構造の転換につながりうる賃金の引き上げによって、モチベーションの維持・向上と、経済の好循環実現に向けた社会的責務を果たすべきである。またコロナ禍は、大都会の魅力であった「にぎわい」や「刺激」、「仕事の多様性・利便性」など、これらの事柄を不安な要素に替わつつある。この機を逃さず、地方の持つ潜在力を新たな魅力としてアピールしていくことが求められる。雇用についても、セーフティネットの枠組みなど、公労使が力を合わせて早急に構築していく必要があることについて、理解と協力をお願いしたい。」と述べた。

労使懇談会では今次春季生活闘争を取り巻く状況について意見交換を行った。

連合宮城 2021 春季生活闘争に関する要請項目

- (1) 賃金引き上げ、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組み
- (2) コロナ禍における雇用・賃金への影響に対する取り組み
- (3) 働き方も含めた「サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配」
- (4) 「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直しについて



海輪会長に要請書を手交する小出会長(左)



宮城県経営者協会

あれから10年 ～ 東日本大震災をつなぐ ～

10年分の感謝

日本労働組合総連合会宮城県連合会 会長 小出 裕一



2月13日、23時8分、最大震度6強の地震は、被災地に暮らすものには「あの日」の記憶が一瞬にしてよみがえるものだった。そして10年たっても「余震」なのだということと、震災への備えを怠ることはできないことも実感させられた。

節目だといわれる今年。様々な報道によって、悲しい思い出もあらためてよみがえるが、たいへんうれしいこともあった。先日、名取市で花栽培を営む三浦さんをはじめとする方々が、たくさんのカーネーションの花束を手に連合宮城の事務所にこられた。10年前、2メートルの津波に襲われ、ガレキで埋もれたカーネーション栽培の温室ハウスを、連合ボランティアがその泥やごみを撤去する作業を行ったことへのお礼の訪問とのことだった。

連合ボランティアは住宅地中心の作業を行っており、小規模の事業用施設での作業は珍しかったようだが、当時ガレキを前に途方に暮れていた三浦さんにとっては、40名のボランティアによってみるみるきれいになっていくハウス内の姿に、心が折れそうになり「廃業」もよぎった日から、もう一度立ち直るきっかけになったといわれた。

今、震災の年に生まれたお子さんは小学生で、将来カーネーション農家をやりたいといっているそうである。三浦さんはボランティアの皆さん一人一人にお礼を言いたいとおっしゃった。

阪神淡路大震災時から始まる連合災害救援ボランティア活動は、2011年東日本大震災時、まれにみる規模で実施され経験と多くの教訓を残した。この10年の間でも、熊本地震など多くの災害において力を発揮し、社会的にも評価されている。

しかし何よりも、いつまでも感謝の気持ちをもっておられる被災者の方々がいるということに、連合全体で自信と確信を共有したい。

コロナで人の移動が制限され、被災地の現状をつぶさにご覧いただく機会も先送りとなっているが、被災地の連合宮城から10年を振り返りあらためて全国の仲間にお礼を申し上げる。

あれから10年 ～ 東日本大震災をつなぐ ～

2011年3月11日14時46分頃、三陸沖を震源とする大地震が発生。東北地方の太平洋側に到達した大津波は、沿岸地域に甚大な被害をもたらしました。



これまで全国各地からの様々な支援やたくさんのボランティアに感謝申し上げます。

—— あれから10年。

一瞬で多くのものを失った悲しみから、人とのつながりや仲間の大切さに改めて気づかされた10年でした。連合はこの10年間、被災地での「復興ヒアリング」を毎年継続して実施し、政府や自治体へ要請行動を行ってきました。

東日本大震災以降も大規模な自然災害は各地で起こっています。連合は、「東日本大震災」をともに振り返り、10年前の記憶と教訓を風化させることなく、防災・減災の活動にこれからもつないでまいります。

連合HP内に『東日本大震災から10年 特設ページ』があります。ぜひご覧ください！

○あつまれ！ユニオンスクエア「東日本大震災発生から10年」

3月5日(金) 18:30～のツイキャス「あつまれ！ユニオンスクエア」では、「東日本大震災発生から10年」をテーマに放送され、リチャード・ハルバーシュタット氏(石巻市復興まちづくり情報交流館中央館館長)と大黒事務局長(連合宮城)も被災地からZOOMで参加しました。

